

中央区内景気動向調査

平成 29 年 8 月調査結果

平成 29 年 9 月 20 日

中央区

総 括

平成 29 年 8 月の動き

中央区内における 8 月の現状判断 D I は合計で 50.5 と、前回調査と変わらず横ばいである。景気の先行き判断 D I は合計で 54.2 と前回調査から 5.2 ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成29年			前回調査 からの変化
	4月	6月	8月	
合計				
現状判断 D I	53.1	50.5	50.5	(0.0)
先行き判断 D I	51.0	49.0	54.2	(5.2)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成29年8月調査の調査票発送は8月7日（月）、回答期限は8月17日（木）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は48名、有効回答率は96.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で54.2と前回調査から5.2ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは55.4と、前回調査から4.4ポイント上昇し、企業動向関連DIは53.0と、前回調査から6.0ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が9.4ポイント減少し、「良くなる」と回答した人の割合が4.2ポイント増加した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

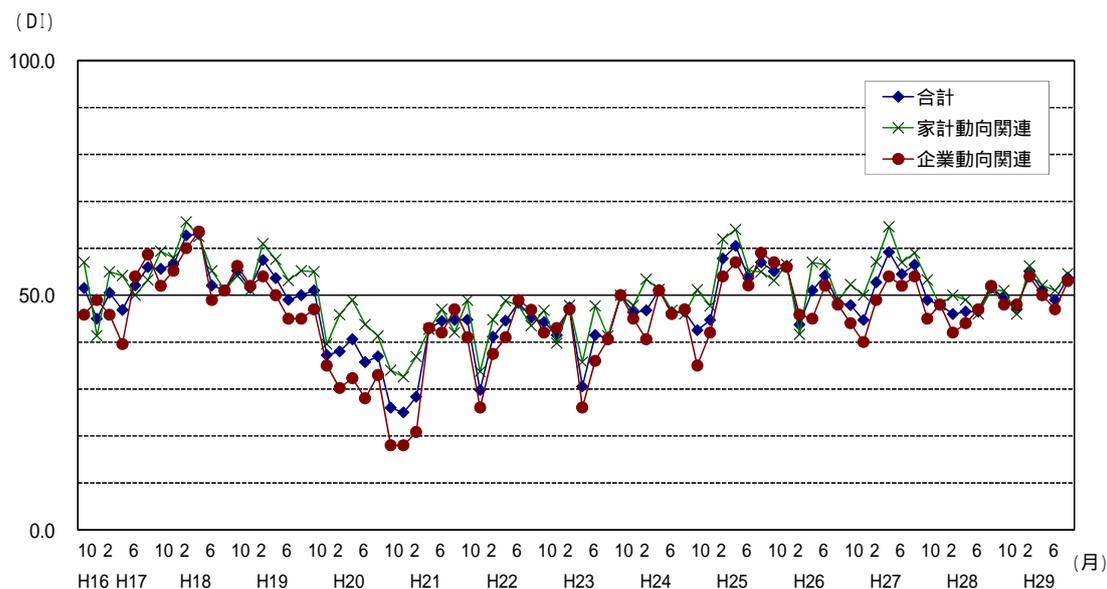
(DI)	平成29年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	51.0	49.0	54.2	(5.2)
家計動向関連	52.1	51.0	55.4	(4.4)
小売関連	45.8	48.1	56.3	(8.2)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	60.7	64.3	53.6	(-10.7)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	50.0	47.0	53.0	(6.0)
製造業	41.7	33.3	45.0	(11.7)
非製造業	52.6	51.3	55.0	(3.7)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成29年	4	0.0%	20.4%	63.3%	16.3%	0.0%
	6	0.0%	24.0%	50.0%	24.0%	2.0%
	8	4.2%	27.1%	52.1%	14.6%	2.1%
(変化幅)		(4.2)	(3.1)	(2.1)	(-9.4)	(0.1)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

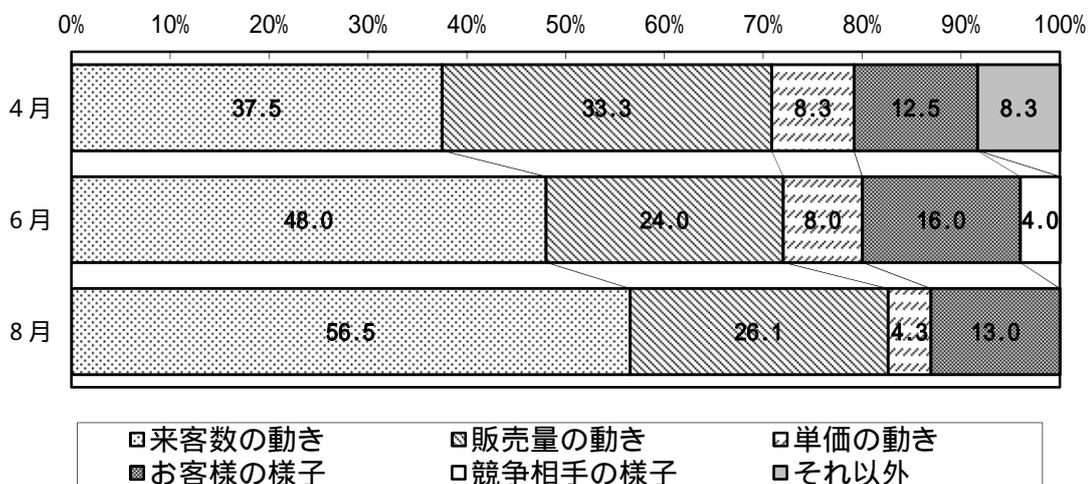
(D I)	平成29年		
	4月	6月	8月
合計	55.1	48.0	47.9
家計動向関連	57.3	48.0	46.7
小売関連	56.3	51.9	50.0
飲食関連	-	-	-
サービス関連	64.3	46.4	46.4
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	53.0	48.0	49.0
製造業	58.3	37.5	45.0
非製造業	51.3	51.3	50.0

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

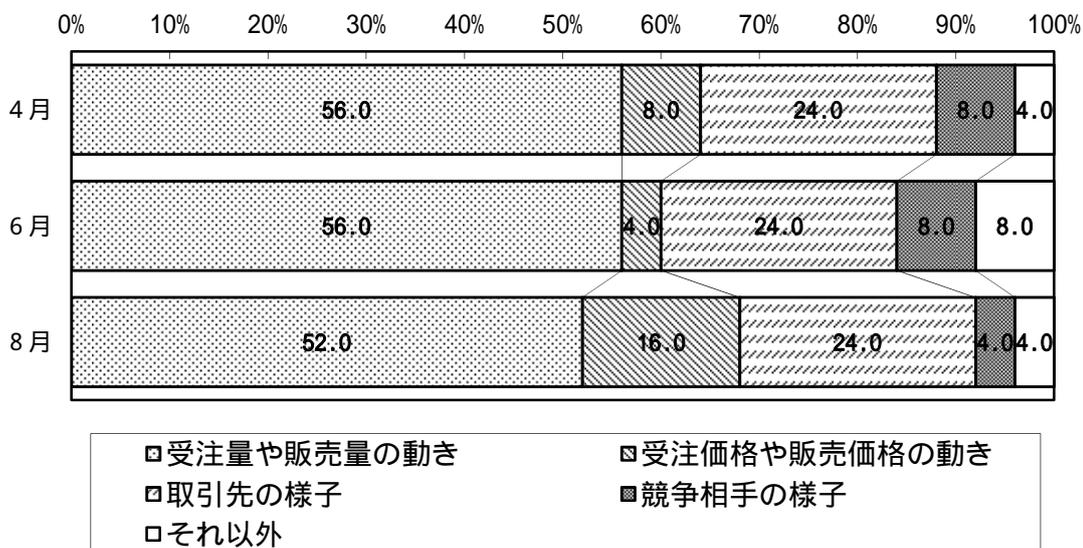
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔文具〕(販売担当)	来客数の動き	・国内客の増加もあるが、外国人客の購入比率が増加している。特に、欧米人の増加が顕著である。
	やや良くなっている	百貨店(総務担当)	お客様の様子	・国内客の買上動向がやや上向いている。
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・大規模再開発が落ち着き、大型商業施設の移転や、その他にも再開発の話題が続いている。路地裏を散策する外国人など、当地域の魅力を意識した回遊客の緩やかな増加が感じられる。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・夏休みに入り、来客数、売上共に大幅に増加している。インバウンドの来客数が特に好調である。
		高級レストラン(副店長)	来客数の動き	・例年7～8月は来客数の少ない月だが、前年に比べると8月は良い。
	変わらない	一般小売店〔靴〕(店長)	来客数の動き	・来客数は増えているものの、単価が下がっている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・特選衣料雑貨、宝飾品などの高額品をはじめ、紳士、婦人雑貨の売上は伸長しているが、その他の紳士服、婦人服、リビング用品などは伸び悩んでいる。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・店舗前の新しい道がいまだに開通しない。物流が動かないと経済は良くならない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・相変わらずこの2～3か月は週末が忙しいので、それなりの売上がある。外国人客も多くなってきている。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・近隣に同業他社が乱立し、供給過多になっている。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・8月になり、お盆休みに入ったこともあり、販売量がやや減少してきている。休み前の駆け込み需要に期待したが、それほど成果はみられない。
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・5月にせよ、8月にせよ、休日が多すぎる。会社員は嬉しいかも知れないが、自営業者には少しも有り難くない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕(営業担当)	来客数の動き	・天候のせいにしたくはないが、やはり暑い日や雨天が続くと客足が悪くなる。1か月の来客数も10%以上減少している。
		一般小売店〔食品〕(店長)	お客様の様子	・今年の夏は早くから猛暑日が続く、食欲がないという客の声を多数聞いた。それに加え、記録的長雨で客足に影響が出ている。
衣料品専門店(店長)		来客数の動き	・来客数、買上率共に減少している。当店前の通行量も減っており、入店につながらず、売上も低迷している。	
高級レストラン(経営者)		来客数の動き	・例年7月は好景気が予測される月だが、30%近くも下落している。夏枯れの影響とは思えないが、分析が難しい。外国人客については増加している。	
悪くなっている	○	○	○	
企業 動向 関連	良くなる	－	－	－
	やや良くなっている	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・社員数の限度を超える受注があるのは有り難いことである。しかし、人を採用したくとも、今は求人難のため、これ以上受注できないという苦しさがある。
		建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・仕事量が多くなっている。入札時、辞退する事業者も多い。
		卸売業〔機械器具〕(従業員)	受注量や販売量の動き	・公共事業の発注が動き出し、受注が始まっている。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	取引先の様子	・2～3か月前に営業していた物件が取れ始めている。
	変わらない	新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・新聞広告の出稿量、広告収入共に前年を割っており、比較的堅調と思える業種もなく、厳しい状況が続いている。ボーナス商戦の盛り上がりにも欠けた印象で、個人消費に力強さが感じられない。
出版業(経営者)		それ以外	・大企業は儲け、中小企業はぎりぎりという二重構造は変わっていない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量、売上等が前年に比べてやや悪い。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・セキュリティ関連は、行政の補助金もあり、Wi-Fiを含めて活性化している。アパレルは深刻な売上減と聞いている。
		不動産業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・オフィスビルの稼働率や賃料は堅調であるが、大きな伸びはない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・このところ受注量にあまり変化がないが、利益は減少傾向にある。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・商店街にも外国人の姿を見かけるようになったが、売上にはなかなか結び付かないようである。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・夏になり、庭等の植栽管理の依頼が多くある。
	やや悪くなっている	出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・書籍は賞の発表により売上が変動するが、雑誌の売上は相変わらず低迷したままである。
		印刷業・製本業（営業担当）	取引先の様子	・全体的に数、量共に減少している。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・夏前から空調関係の依頼があるが、同作業や繰り返しとなる修繕も多いため、金額的に落ち込みがみられる。
	悪くなっている	—	—	—

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	・外国人客が増加している。高額品の売れ方が良く、客単価も上昇している。	
		やや良くなる	一般小売店〔食品〕 (店長)	・毎年お盆休み前後は客単価が下がる。加えて、今月は天候が不安定なので、それに比べると、先行きはやや良くなるのではないか。
			百貨店(総務経理担当)	・特別なインバウンド施策がないなかでも、外国人観光客は復調の兆しがみられ、化粧品関連が好転している。
			衣料品専門店(店長)	・競合状態は良くなってきているので、地下街全体も良くなると予想している。
			高級レストラン(副店長)	・夏は来客数が減少するが、10～11月になると必然的に宴会や一般席の来客数が増える。
	競馬場(職員)	・1～6月の間、発売実績が安定して前年を上回っている。		
	その他レジャー施設 (経営者)	・秋風が吹き、少し涼しくなってくると、客足も少しは伸びてくる。良い時は良いなりに、悪い時は悪いなりに期待している。		
	変わらない	一般小売店〔靴〕(店長)	・北朝鮮のミサイル問題の影響が為替や株価に及ぶと、日本経済にダメージを与えるという不安が変わらずにある。	
		百貨店(総務担当)	・引き続き、インバウンド需要の堅調さが全体を押し上げるとみている。	
		百貨店(総務担当)	・好調な免税売上に加え、株高に伴う資産効果などにより高額品売上が伸長しているものの、商品売上全体として充実感に欠ける。	
		スーパー(店長)	・政治が正しい方向に停滞なく動かないと、経済に反映していかない。	
		コンビニ(店長)	・梅雨明け前後の猛暑のあと、8月に入っての天候不良で、今年は早くも夏商戦終了の感があり、あっけない夏となっている。今後残暑はあるだろうものの、客の志向はすでに秋に向かって変化してきているため、リカバリーにはならない。とはいえ、気候の影響を除くと、客の購買の様子には大きな変化はみられないため、変わらない。	
		高級レストラン(経営者)	・現状から推察すると、秋口までは良化しない。プレミアムフライデー等に関する影響はないと思うが、良い政策とは思えない。	
		一般レストラン(経営者)	・ここ2～3か月ずっと良いので、さほど変わらずに推移する。	
		一般レストラン(経営者)	・来客数があまり多くないうえ、その客に購買意欲がない。また、見物だけの客も多いため、そのようななかで景気が良くなるとは思えない。	
都市型ホテル(経営 旅行代理店(支店長))		・国内景気の回復が思うように進んでいない。 ・急激には変化しない。		
やや悪くなる		一般小売店〔事務用品〕 (営業担当)	・残暑が続く予想がある。また、景気が上向いているという感覚もまったく感じられない。国や日銀の政策も限界にきているのではないかと。	
	通信会社(営業担当)	・直接の影響はないかもしれないが、大手家電メーカーの粉飾決算問題もあり、関連会社からの販売量が減る可能性がある。		
	通信会社(営業担当)	・夏休みでの消費の反動から、買い渋りが想定される。		
悪くなる	一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・日銀が2%物価上昇目標達成を6度目の見送りをしたこと、短期金利がマイナスであること、デフレが続くとみられることなどから、悪くなる。		
企業 動向 関連	良くなる	卸売業〔繊維・衣服等〕(営業担当)	・秋物の販売が始まるので、良くなる。	
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・8月は例年物量が少ない時期だが、9月以降多少戻ってくる予定がある。	
		輸送業(従業員)	・新規での契約予定がある。	
		卸売業〔機械器具〕(従業員)	・第3四半期までは発注が推移する見込みである。受注計画に明るい見通しが立っている。	
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	・今月、来月にもう少し受注できそうなので、2～3か月後に反映してくる。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	・年末に向けて、建築や工事関係が増えていき、大手が受け切れなくなった案件が出てくる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	新聞業（営業担当）	・前年のリオデジャネイロオリンピックのような大型イベント、メガヒットとなったエンターテインメントコンテンツの反動もあり、今年は前年に比べて、景気の雰囲気醸成する核となる話題に欠ける印象がある。
		出版業（経営者）	・規制緩和が活力を生む。例えば、アメリカのタクシー業界では、新しいシステムの普及に伴い、業界の構造が一新され、新規雇用も生まれている。
		建設業（経営者）	・東京オリンピック景気で工事は増えるが、求人難、人件費の問題で受注を増やせない。
		建設業（営業担当）	・受注量が伸びていない。
		建設業（営業担当）	・仕事量に対し落ち着きが出る。
		建設業（経営者）	・当社を取り巻く環境に変化があるとは思えない。
		通信業（営業担当）	・米国、北朝鮮をはじめ、国際社会の不安定さがどのように影響してくるか不透明である。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・前回調査時と比べて、半導体関連の好調さが広範な部分で景況に貢献しており、質問2での評価を「やや良くなっている」とした。ただ、今後については、更なる需要喚起につながるまで強さやイベントは見当たらない一方で、北朝鮮や中国等をめぐる地勢学的リスクが高まっていることを考えると、変わらない。
		不動産業（企画担当）	・2018年以降オフィスビルの大量供給が続くものの、リーシング状況も堅調であり、大きな変化はない。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		経営コンサルタント	・今のところ東京オリンピック景気の実感がないようである。銀座付近は人が戻りつつある。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・我々中小企業に対しては、状況的にプラス要因はない。
		やや悪くなる	出版業（営業担当）
印刷業・製本業（経営者）	・依然として価格競争が続いている。小売価格の競争が、川上の価格を圧迫している。		
卸売業〔機械器具〕（経営者）	・夏季休暇のせいなのか、商品の動きが悪い。		
悪くなる		-	-

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	13
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	6
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0